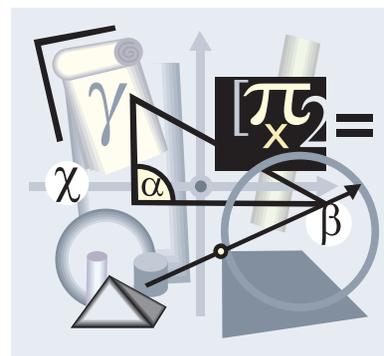


● CONTENTS ●

特集 Special Features eラーニングの広がり連携 Collaboration in Spreading e-Learning

- 1027** 編集にあたって 清水康敬
Foreword Yasutaka SHIMIZU (National Institute of Multimedia Education)
- 1029** 1. オープン・コース・ウェアの現状と展望 宮川 繁
OpenCourseWare - How It Started and Where It is Going Shigeru MIYAGAWA (MIT)
- 1039** 2. コミュニティソースによる教育現場の多様性を育むオープンプラットフォームの実現に向けて 梶田将司
Toward Realization of Open Platform Based on Community Source for Nurturing Diversity in Teaching and Learning Shoji KAJITA (Nagoya Univ.)
- 1044** 3. オープンソース eラーニングプラットフォーム Moodle の機能と活用例 喜多敏博・中野裕司
Open-source e-Learning Platform Moodle : The Functionality and the Sites Using It Toshihiro KITA and Hiroshi NAKANO (Kumamoto Univ.)
- 1050** 4. 連携を支える基盤 — eラーニング技術標準化— 仲林 清
Infrastructure to Support Cooperation - E-Learning Technology Standardization - Kiyoshi NAKABAYASHI (National Institute of Multimedia Education / Nagaoka Univ. of Technology / Kumamoto Univ.)
- 1057** 5. eラーニングと著作権 尾崎史郎
Copyright for e-Learning Shiro OZAKI (National Institute of Multimedia Education)
- 1061** 6. eラーニングにおける品質と学習者情報 学習活動ログとプロフィールによる品質モデル 平田謙次
E-Learning Quality Models with Learner and Competency Information : Relation among ISO/IEC 19796s Quality Standards, Learning-log and Competency Kenji HIRATA (Toyo Univ. / National Institute of Multimedia Education)
- 1068** 7. eラーニングの普及と教育のオープン化に対応する支援体制とエコシステムの確立と展開 飯吉 透
Development of the Support Structure and Ecosystem for Promoting e-Learning and Open Education Toru IIYOSHI (Carnegie Foundation / Univ. of Tokyo / Chubu Univ.)
- 1074** 8. 学習コンテンツの国際的な共有再利用の枠組み —その技術的基盤とビジネスモデル— 山田恒夫
Current Frameworks for International Sharing and Reuse of Learning Content Tsuneo YAMADA (National Institute of Multimedia Education)



- 1082** 3日で作る高速特定物体認識システム 黄瀬浩一・岩村雅一
Building an Efficient System of Specific Object Recognition in Three Days Koichi KISE and Masakazu IWAMURA (Osaka Prefecture Univ.)
- 1090** フラッシュメモリの最新技術動向 — SSD への応用 竹内 健
Technology Direction of Flash Memories and New SSD Application Ken TAKEUCHI (The Univ. of Tokyo)



- 1099** 計算の視点から音楽の構造を眺めてみると 音楽と言語の構造認知 東条 敏
Thinking of Musical Structures from a Computational Point of View : Structural Understanding of Music and Language Satoshi TOJO
(Japan Advanced Institute of Science and Technology)



その他

- | | |
|-------------------------|---------------------------------------|
| 1106 会員の広場 | 1118 会誌「情報処理」50巻
表紙デザイン募集!! |
| 1108 IPSJ カレンダー | 1119 アンケート用紙 |
| 1110 人材募集 | 1120 編集室／次号予定目次 |
| 1115 有料会告 | 1121 掲載広告カタログ・資料請求用紙 |
| 1116 有料会告について | 1122 賛助会員のご紹介 |
| 1117 おふいすらん／訂正記事 | |



今から40年前頃に、EFTという言葉を目にした。FETではなくEFT。原綴りはElectronic Funds Transferで、今では電子決済という用語らしい。資金という「価値」をネットワークという頼りないもので移動するための苦勞話に満ちていたように思う。当時から始まって、コンピュータやネットワークが絡むものには何でも「e」をつけるようになってきた。eコマース、eトレード、eタックス、はてはeジャパン、といった使われ方をしている。講習や教育の分野では、言葉としてはCAI (Computer Aided/Assisted Instruction) などが使われてきたが、ここにも「e」が襲来し、eラーニングとかeエデュケーションが議論され、実施に移されてきている。ただし、「教育」という正体不明瞭なものを扱うだけあって、現在でも、広く「納得の上浸透」しているわけではないのが実状であろう。

今月号の特集は「eラーニングの広がり」と連携」で、小林亜樹、清水康敬がエディタ。eラーニングについての広範囲をカバーする解説集。MITのOCWを開始するにあたっての経緯や事前調査の結果が面白い。MIT卒業生が望む「学習期間」で多かったのが、1学期でも1カ月でもなく、もっと短時間、極端には30分というのもあったという。この結果もあって、有料教育サイトMIT.comの開設は見送られたそうである。「OCWは人類のために」という宣言もあって、一般のネット環境が貧弱な南アフリカ地域のために、OCWコンテンツを収めたハードドライブを持って走り回っている学生も定期的にいるのだという。

OSSとして構築されているSakaiとMoodleの紹介もある。開発や運用の体制にはそれぞれの個性があるが、両者ともコミュニティ活動が盛んであり、教育機関の連携も活発のようだ。また日本でも、JOCWやJa Sakai、それにMoodleベースの大学間ネットワークなど、活動はひろまりつつあるが、「先進国」と比べるとまだまだ低レベルであるそうだ。あと、学習履歴、学習内容、それに教材という要素に関する技術標準化、著作権上の問題点、品質、教育のオープン化への支援体制、国際的なコンテンツ共有、といった話が続く。

「3日で作る高速特定物体認識システム」(黄瀬浩一、岩村雅一)は、学生実験程度の作成者環境のもとで、特定物体認識のシステムを構築する話。技術的な内容の解説は丁寧なのだが、実際に学生実験として実施してみた様子が書かれていないのが不満。教材として面白い試みではある。

「フラッシュメモリの最新技術動向 —SSDへの応用」(竹内健)は、近頃皆が多方面で世話になっているフラッシュメモリの技術解説と、ハードディスクに代替するための問題点と対策方法などの話。繰返し利用による記憶セルの劣化と、512K～1Mバイトという大きな消去単位が問題であり、誤り訂正や記憶場所の最適化、さらにはOS側の対応も必要だという。

「音楽と言語の構造認知」(東条敏)は道しるべ“計算の視点から音楽の構造を眺めてみる”のシリーズ。言葉と歌は結局は同じ起源から生まれているはずだ、という、結構納得できる話をもとに、まず文脈自由文法、次にそれを属性文法的に拡張したヘッド駆動型句構造文法を紹介している。次の課題は「計算方法」だとか。(Nimble Jack)



会誌編集委員会

編集長

川合 慧

担当理事

武田 浩一

松原 仁

本号エディタ

青柳 隆

石田 亨

位野木万里

兼宗 進

久門 耕一

胡 振江

小林 亜樹

佐伯 元司

清水 康敬

白井 良成

白木 善尚

田中 哲朗

田中 秀樹

長谷川 亨

前田 英作

間瀬 久雄

山之内 徹

山本里枝子

編集スタッフ

後路 啓子

町田 善江

綿谷 亜樹